



毎月十五日発行 宗像大社 定価 一年送料共 1000円

神具、装束 結飾式場用品 株式会社 井筒

宗像七浦の漁民の真心こめて

新若布を御献上



厳島の女界灘の荒浪を育つて早春の新若布が、一月二十三日、天皇、皇后両陛下、同妃殿下に献上された。

この献上若布は、宗像七浦六漁協(大浦、津崎、福間、津島、神湊、地ノ島)で結成している宗像大社海神奉賛会(会長「遠藤 宗山」)が、中心となり、二月十六日、予定通り、六月二十三日、昭和三十八年より、毎年会

場、開始式で掲揚された。この旗を引く者として、宗像七浦六漁協(大浦、津崎、福間、津島、神湊、地ノ島)で結成している宗像大社海神奉賛会(会長「遠藤 宗山」)が、中心となり、二月十六日、予定通り、六月二十三日、昭和三十八年より、毎年会

場、開始式で掲揚された。この旗を引く者として、宗像七浦六漁協(大浦、津崎、福間、津島、神湊、地ノ島)で結成している宗像大社海神奉賛会(会長「遠藤 宗山」)が、中心となり、二月十六日、予定通り、六月二十三日、昭和三十八年より、毎年会

場、開始式で掲揚された。この旗を引く者として、宗像七浦六漁協(大浦、津崎、福間、津島、神湊、地ノ島)で結成している宗像大社海神奉賛会(会長「遠藤 宗山」)が、中心となり、二月十六日、予定通り、六月二十三日、昭和三十八年より、毎年会

場、開始式で掲揚された。この旗を引く者として、宗像七浦六漁協(大浦、津崎、福間、津島、神湊、地ノ島)で結成している宗像大社海神奉賛会(会長「遠藤 宗山」)が、中心となり、二月十六日、予定通り、六月二十三日、昭和三十八年より、毎年会

場、開始式で掲揚された。この旗を引く者として、宗像七浦六漁協(大浦、津崎、福間、津島、神湊、地ノ島)で結成している宗像大社海神奉賛会(会長「遠藤 宗山」)が、中心となり、二月十六日、予定通り、六月二十三日、昭和三十八年より、毎年会

場、開始式で掲揚された。この旗を引く者として、宗像七浦六漁協(大浦、津崎、福間、津島、神湊、地ノ島)で結成している宗像大社海神奉賛会(会長「遠藤 宗山」)が、中心となり、二月十六日、予定通り、六月二十三日、昭和三十八年より、毎年会

国旗問題を考える

昨年十一月公表された教育課程審議会の最終答申の中で、国旗・国歌尊重教育の実施が重点的課題の一つとして指摘されているのが目についた。その趣旨は、「日本人としての自覚を養い国を愛する心を育てる。視点から、入学式、卒業式等の儀式で、国旗掲揚・国歌斉唱の実施を明確にすること。および、小学校六年と中学校の段階で、「国旗・国歌の意義について理解させ、それを尊重する態度を育てること」を求めている。国民常識に照らし、それがきわめて当然の意見であることはいうまでもない。

しかし、実は文部省は十六年秋、全国の教育長に対し、中、高校の入学式、卒業式での国旗掲揚・国歌斉唱の奨励を求める通知を出しているのだが、今回の教育課程審議の答申をみると、その通知の意図がまだ徹底してはいないらしいことがわかる。いや、戦後四十余年の歴史を振り返ってみても、国旗・国歌への認識を養うことが、いかに教育の大きな問題として議論されてきている。それは戦後日本におけ

国民思想混乱の一面を端的に示すものである。といつてもいい。一月二十七日の国旗制定記念日をむかえて、そのことをあらためて考えさせられる。全体的に、いはい今日、国旗、日の丸に対する国民感情は良好で、学校の卒業式、入学式でも小、中学校では九〇%以上、高校でも八〇%以上が国旗を掲揚している。今から十数年前、国旗掲揚をめぐる校長教師やPTA対抗、村民

場、開始式で掲揚された。この旗を引く者として、宗像七浦六漁協(大浦、津崎、福間、津島、神湊、地ノ島)で結成している宗像大社海神奉賛会(会長「遠藤 宗山」)が、中心となり、二月十六日、予定通り、六月二十三日、昭和三十八年より、毎年会

場、開始式で掲揚された。この旗を引く者として、宗像七浦六漁協(大浦、津崎、福間、津島、神湊、地ノ島)で結成している宗像大社海神奉賛会(会長「遠藤 宗山」)が、中心となり、二月十六日、予定通り、六月二十三日、昭和三十八年より、毎年会

場、開始式で掲揚された。この旗を引く者として、宗像七浦六漁協(大浦、津崎、福間、津島、神湊、地ノ島)で結成している宗像大社海神奉賛会(会長「遠藤 宗山」)が、中心となり、二月十六日、予定通り、六月二十三日、昭和三十八年より、毎年会

場、開始式で掲揚された。この旗を引く者として、宗像七浦六漁協(大浦、津崎、福間、津島、神湊、地ノ島)で結成している宗像大社海神奉賛会(会長「遠藤 宗山」)が、中心となり、二月十六日、予定通り、六月二十三日、昭和三十八年より、毎年会

場、開始式で掲揚された。この旗を引く者として、宗像七浦六漁協(大浦、津崎、福間、津島、神湊、地ノ島)で結成している宗像大社海神奉賛会(会長「遠藤 宗山」)が、中心となり、二月十六日、予定通り、六月二十三日、昭和三十八年より、毎年会

余滴

当社の境内にはチャボが放し飼ひされている。最初「下羽はどいたが、野鳥に襲われて次第に数が減り、いまでは六羽だけに減ってしまった。しかし残ったこれらの空中高く舞い上り、夜は高い樹上をめぐらして、その飛翔力は驚くばかりである。たび重なる野鳥の脅威にさらされて、外敵の脅威が目覚め、生き延びる道は、知恵を身に付けたのであろう。我が国には昔から、暇難、汝を玉にす」とか、若い内の苦勞は買つてでもし、といった言葉があり、困難なことに全力を尽してぶつかって行くこと、という姿勢や気魄を大切にしたものであるが、大抵には、少ない労働力で大きな利益を、といった功利主義が幅をきかす、辛いことと苦しいことは出来るだけ避けて通ろうとする風潮が広がっている。

第三九回 宗像大社歌会詠草

八幡西 川崎 ウラ 潮引き夕日 柳の浜の出づる時折り夕日に雲のひかる (評) 引潮と共に現われた牡蠣養殖の浜、それより満潮の半が夕日に匂うばかり。熟達した手練を思ふ。 吉 留 白木 白木の神技に足の重たく脱ぎ捨てし水足袋が稲の株間に見つかる (評) 上句は回想であつても少しは甘さがなく、労働の実感が直に伝わる。下句は具象的的確である。 田 久 立花 勇雄 いつの日までこの平穩の続かなかつ夕陽の席に老妻がふと言ふ (評) お互いにその事は承知としていても口にはなし難い。ふと言われて胸を衝かれた瞬間が表白されて同感。 東 郷 藤崎 辰子 日の丸を掲げるに何を躊躇はむ今日は建国記念の日なり 戸畑区 田中ハツセ 戸門より入れしバリウム影の絵のゴッス扶輪を写してはる 香 椎 桜井 ツ子 スイッチを切り温もりの引床に起きなごみり寒鴉啼く 大 島 原 節子 大島 屋形とみえ 独り居る夜は静もりに窓の外風花は灯に光りつつ消ゆ 大 島 原 節子 寒き朝光のせせせの面を開閉おきそ湯気たれ界る 自由の丘 後藤 君代 あたたく春の日にぞに路の蘆葉つきを被けり 池 田 小田 イセ 一つ峠越えて来たれば遠賀 野田園遊下見 池田 小田 山田 久美子 海ぞいの山の斜面に重なりし映き稲田の能登の寒村

建国祭斎行

国家創始の偉業を思う



去る二月十一日午前十一時より、当大社本殿に於て兼父宮司以下神職全員の奉仕のもと、氏子・崇敬者等多数参列の中、建国祭が厳粛かつ盛大に斎行された。当日は雨こそ降らなかつたものの、終日曇天で気温もやや低めではあったが、境内は数多くの参拝者で賑わいを見せていた。

定刻、斎館前庭より宮司以下神職・参列者は参進の後、拝殿所定の位置に着き祭典が開始された。

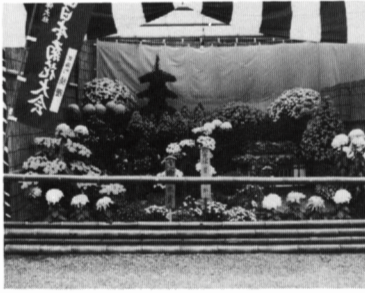
先ず、神日本豊彦彦尊かむやまといわれひこのみこと神武天皇が、日向の高千穂を出立され国家統一をなされ、大和の橿原宮にて初代の天皇として即位された偉業を称え奉ると共に、

大きな問題もなく、拝観者に大変喜ばれ満足ゆくの大会であったので大きく変更する必要がないとの意見が多く出された。しかしながら当菊花大会は九州・西日本地区を代表したもので、その立場にあるので、高度な技術学習の必要があるとの認識により、特殊菊の出品を奨励し出品約も後述の通り決定した。菊前販売も好評であるが、菊苗花・盆栽・懸崖菊に加えて、大菊古花・普及花・洋菊・古典菊をも販売し下部底辺の充実を計るようになった。

本年度の方針・運営については、会議・大会日程・花展・場内施設・特殊花壇の設置・出品地区の拡大・審査員並審査規定の変更・顧問・一切大会の新設・二十周年記念大会準備委員会設立等に多くの案件が提示され、活発なる意見の交換ののち各々決定、理事会

総会開催

宗像大社菊花会



全国的に注目を集めている西日本菊花大会を主催する宗像大社菊花大会の昭和六十二年度総会が去る一月三十一日宗像大社清明殿に於いて開催された。この総会は前年度大会の反省会並その決定による本年度の方針を協議するもので毎年この時期に開催されている。

当日午前十時出席者八十余名全員新春の拝殿神前にて正式参拝を受けたのち会議が開始された。

宇都宮博司・高原会長の挨拶の後、高島理事長が議長に推挙し上記の案件に就いて議事が進行された。その結果前年度十七回大会に於ける、出品花配置・出品規定細則・大会運営等

皇皇の弥栄と国家の安泰・国民の平和とを祈念する司の祝詞奉上げが行われ、引き続き参列の調へに導かれ巫女一名奉仕による豊樂舞が奉納された。

戦前までは「紀元節」として広く親しまれていたこの日は、明治五年十一月五日、これまで使用されてきた太陰曆に代つて太陽曆が採用され、太政官布告により神武天皇の即位の年を、紀元元年(きげんがねん)とし、二月十一日を「国家紀元の日」と定め、国家の祝日の日と定められたのである。

しかし、この「紀元節」も日本の敗戦により昭和十二年に連合国の占領政策で廃止されたが、国民有志の「日本国家皇室の起源は

付託と処理された。会議終了後直ちに新年懇親会に移り、後宗像郡選出の小山達生県議会議員・玄海町教育委員中野晴海技官を来賓に迎え、玄海の海の幸を充分堪能され午後五時すぎ本日まで行事を完了し散会した。

尚この懇親会には芳栄会選出の木村勝弥理事の胆入にて、勝栄会々主野野水勝先生外二名により洋鼓三味線の演奏があり会員一同深々感銘を受けた。

是非で定めなくてはならない」と強い要望がみられ、昭和四十一年に政令で「建国記念の日」と名称を改め、再び国家の祝祭日と定められたのである。

建国記念の奉祝の諸行事も年々盛大に催されており誠に喜ばしい限りである。

本年、昭和六十三年は西暦になおすと一九八八年、皇紀では二六四八年ということになる。

この様に私達の住む日本は、世界でも有数の建国の歴史の長さ誇る国である。

私達はこのすばらしい国である日本をもっと大切にするとともに、未永く守つていかねばならない。

宗像大社 春まつり(保存会)御案内

春の大祭を左記行事日程で斎行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいませよ御案内申し上げます。

昭和六十三年三月吉日

宗像大社 事務所

宗像大社 春まつり(保存会)御案内

三月三十一日 午後五時 総社地主祭

三月三十一日 午後六時 宵宮祭

四月一日 午前十一時 大祭(氏子奉幣、風俗舞、浦安舞)

四月一日 午前十一時 舞社祭(献上若布採取者表彰)

四月一日 午前十一時五十分 宗像護国神社祭 高宮祭

第二・第三宮祭

四月一日 午後二時 献茶祭(南流流小社中本殿脇)

四月一日 午前十一時 交通安全講々社祭

奉納詠吟大会(於清明殿)

奉納剣道大会(於境内)

本殿脇)

新責任役員に 古賀芳人氏就任

四才になられた。同氏は、福岡師範学校本科第一部、同専攻科を卒業された後、教職に就かれ、県内の尋常高等小学校、国民学校、高等学校の教職、教頭などを歴任、昭和三十三年に河東小学校校長となられ、同四十七年三月、福岡小学校校長を最後に退職された。この間四十年間教職として、又教員養成所主事・教育庁宗像出張所次長等と、児童育成に社会教育などに貢献し、活躍してこられた教育者であられる。現在在地域の人権擁護委員を勤められており、人望も篤く、温厚誠実な人柄なので、今後大社と氏子との絆としての活躍が期待される。

天正年間奉納の三十六歌仙扁額(十)

天正年間奉納の三十六歌仙扁額は、社伝によると時の大宮司宗像氏貞の奉納とされている。

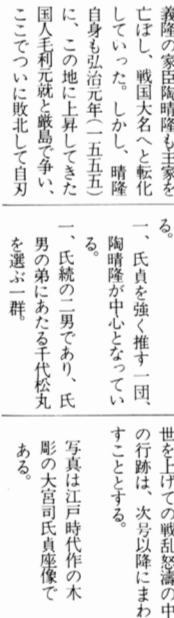
今回は、宗像社の社頭を安堵すべく、心血を注ぎ込んできた中世に於ける尾の英傑と称えられてやまない、大宮司氏貞の事迹を追っていきとしよう。

氏貞は名を鶴寿丸と言う。天文十四年(二五五五)に大宮司氏貞が内

仙扁額は、社伝によると時の大宮司宗像氏貞の奉納とされている。

今回は、宗像社の社頭を安堵すべく、心血を注ぎ込んできた中世に於ける尾の英傑と称えられてやまない、大宮司氏貞の事迹を追っていきとしよう。

氏貞は名を鶴寿丸と言う。天文十四年(二五五五)に大宮司氏貞が内



口泉)黒川で生まれる。母親は当時福岡防国を治めていた守護職、後の戦国大名大内義隆に、仕える家臣陶晴賢の姪であった。晴賢は大内家の家内をとり纏めていたことが出来る強大な実力者として武將でもあったが、後に主人に反して謀叛を働く。この時七歳であり、幼くして宗像大宮司職を継いで、九月十一日に宗像防より初めて訪れたのである。

これから先宗像では、宗像大宮司家臣達の間で、所謂家督相続の争いが起つてくる。いわゆるお家騒動であり、これは大きく三つの集団に分けることが出来る。

一、氏貞を強く推す一団、陶晴隆が中心となつていて、氏貞の二男であり、氏貞の弟にあたる千代松丸を選ぶ一群

写真江戶時代作の木彫の大宮司氏貞像である。

い。こうして氏貞は、翌年二十一年に他を制圧して家督を継ぎ、九月十一日に宗像の本姓に復して、宗像神社文書九月十一日大内晴英書状がある。

この時七歳であり、幼くして宗像大宮司職を継いで、九月十一日に宗像防より初めて訪れたのである。

これから先宗像では、宗像大宮司家臣達の間で、所謂家督相続の争いが起つてくる。いわゆるお家騒動であり、これは大きく三つの集団に分けることが出来る。

一、氏貞を強く推す一団、陶晴隆が中心となつていて、氏貞の二男であり、氏貞の弟にあたる千代松丸を選ぶ一群

宗像大社歌会 俳句作品集(三〇)

福岡町 広渡一軒軒
猛、柔、漫、描き分けられ
て春の龍

藤沢市 井上 玄洋
満開の梅林あたり暮泥む
田 熊 安部 ゆき
探梅やそぞろめぐりて句碑
に付ち

福岡中央 力丸 玄風
梅ひらく今日の日差し惜
しみなく

津屋崎 西住喜三郎
白さ増す雲に薦す寒き春
買初に筆の命毛確かむる

日の里 花田いつえ
田 熊 力丸 一郎
電熱を約して老の日向ぼ
つ

津屋崎 井浦 良介
焼き芋の声曲り来る二月の
路地



(続) 浜の寄物

五島福江島へ(1)

25



五島へは福岡空港から飛
行機に乗ると、四五分ほど
で福江空港に着く。五島列
島は九州の最西端で、本土
の西方約百キロの位置にあ
る。福江島は福江市と南松

浦部の岐宿、三井栗、玉之
浦、富江町の一市四町より
なる。福江島は福江市と南松

浦部の岐宿、三井栗、玉之
浦、富江町の一市四町より
なる。福江島は福江市と南松

浦部の岐宿、三井栗、玉之
浦、富江町の一市四町より
なる。福江島は福江市と南松

浦部の岐宿、三井栗、玉之
浦、富江町の一市四町より
なる。福江島は福江市と南松

浦部の岐宿、三井栗、玉之
浦、富江町の一市四町より
なる。福江島は福江市と南松

浦部の岐宿、三井栗、玉之
浦、富江町の一市四町より
なる。福江島は福江市と南松

浦部の岐宿、三井栗、玉之
浦、富江町の一市四町より
なる。福江島は福江市と南松

浦部の岐宿、三井栗、玉之
浦、富江町の一市四町より
なる。福江島は福江市と南松

まつりと生活(三) 日本人の宗教意識

現代の日本は宗教の多様
化時代であります。日本人
は古代から土着信仰であり
日本文化の原点ともいえる
神道を基盤に、仏教・儒教・
キリスト教など、あらゆる
宗教を受け入れ、これを日
本的なものに消化してしま
した。これは、日本人ある
いはば神道の宗教的寛容性
にあるといえます。

その神道という言葉が、
最初に出てくるのは、日本
書紀です。用明天皇、孝徳
天皇の條に
○天皇は仏法を信じ、神道
を尊ぶ。
○仏教を尊び、神道を軽ん

び、神道を軽ん
び、神道を軽ん
び、神道を軽ん

び、神道を軽ん
び、神道を軽ん
び、神道を軽ん

び、神道を軽ん
び、神道を軽ん
び、神道を軽ん

び、神道を軽ん
び、神道を軽ん
び、神道を軽ん

び、神道を軽ん
び、神道を軽ん
び、神道を軽ん

び、神道を軽ん
び、神道を軽ん
び、神道を軽ん

び、神道を軽ん
び、神道を軽ん
び、神道を軽ん

び、神道を軽ん
び、神道を軽ん
び、神道を軽ん

び、神道を軽ん
び、神道を軽ん
び、神道を軽ん

び、神道を軽ん
び、神道を軽ん
び、神道を軽ん

び、神道を軽ん
び、神道を軽ん
び、神道を軽ん

び、神道を軽ん
び、神道を軽ん
び、神道を軽ん

び、神道を軽ん
び、神道を軽ん
び、神道を軽ん

び、神道を軽ん
び、神道を軽ん
び、神道を軽ん

て、やっと見られるものが見えた。恐らく地味は耕運機を使う為、貝殻はこまかく砕けて、それに土にまきつけてしまっているのだから。この貝殻は弥生時代前期から中期にわたるといふ。その他、遺物らしものも散布して見えた。

そこを見学して、津屋ヶ崎(きょうつがさき)の遺唐使船寄泊の地へ、崎の手前に、約五十メートルほどの小さな入江があったので、車からおりて歩いた。浜には中国や韓国の漂着物ばかりである。特に中国製品類が多い。海漂物を二個拾った。一個は完全なもので、外をビニールで密封してあった。中に調味料が入っていた。それに十数枚の反古のラである。中国製品の多いのは当然で、海はむこうは広大な中国大陸が横たわっている。海流に乗って五島へ到着する。

魚津ヶ崎の遺唐使船寄泊地の碑を見た。外海に面しているが、入江になっており、恐らく波が打ち寄っていた。昨年同局を襲った台風のため壊れたままであった。付近の道路脇や畑地を注意し

て、やっと見られるものが見えた。恐らく地味は耕運機を使う為、貝殻はこまかく砕けて、それに土にまきつけてしまっているのだから。この貝殻は弥生時代前期から中期にわたるといふ。その他、遺物らしものも散布して見えた。

そこを見学して、津屋ヶ崎(きょうつがさき)の遺唐使船寄泊の地へ、崎の手前に、約五十メートルほどの小さな入江があったので、車からおりて歩いた。浜には中国や韓国の漂着物ばかりである。特に中国製品類が多い。海漂物を二個拾った。一個は完全なもので、外をビニールで密封してあった。中に調味料が入っていた。それに十数枚の反古のラである。中国製品の多いのは当然で、海はむこうは広大な中国大陸が横たわっている。海流に乗って五島へ到着する。

魚津ヶ崎の遺唐使船寄泊地の碑を見た。外海に面しているが、入江になっており、恐らく波が打ち寄っていた。昨年同局を襲った台風のため壊れたままであった。付近の道路脇や畑地を注意し

て、やっと見られるものが見えた。恐らく地味は耕運機を使う為、貝殻はこまかく砕けて、それに土にまきつけてしまっているのだから。この貝殻は弥生時代前期から中期にわたるといふ。その他、遺物らしものも散布して見えた。

宗像むかし話(25) 大森弥五郎

井堰工事に挺身した

文化十三年(二八一六)

八月二十三日 大風雨

文政一年(二八二八)

八月九日 大暴風雨

釣川は氾濫して各村の田畠に相成申す。左右御田に相成申す。只今に於ては風防に御座候。中島に御座候。中島に御座候。中島に御座候。

追々繁茂仕り、風防丈夫相成り有難く存上奉り候。然る處、右浜山付近に中島と相備へ、御田中に松立にも相成申す。左右御田に相成申す。只今に於ては風防に御座候。中島に御座候。中島に御座候。中島に御座候。

御伐除の儀百姓一統御願申上げ候。

文政三年八月から開墾が

今から約六十年前、文

化元年月、牟田尻村の大

森弥五郎は毎年打ち続く干

魃と風水害に

悩んで、この

地方一帯が

年々困窮の度

を加えていく

事に深く心を

痛めていた。

立木と化した

たかに見えた

弥五郎の視線

は、彼方の防

風林に注ぎ、

鐘崎から津屋

崎に巾着帯

のように連

なっている防

風林は、牟田

尻村で大きく

尻村の方へ突

出している個所があった。

この時、彼に二条の案が

ひらめいた。二条の案が

開墾したら、大きな田地が

現れた。

しかし、新田の出現は、

今迄ささげない灌漑用水

を更に深刻にした。夏期に

照りが続く牟田尻村三十

余町歩はたちまち旱害に悩

まされた。

この為、釣川川端渡しに

砂井堰が設けられたが、年

毎の洪水によって流失して

しまし、その都度この井堰



(Y・S記)